

令和7年度 珠洲市立上戸小学校  
学校評価だより(最終)  
令和8年2月発行

日頃より多くのご支援・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。学校評価の中間評価をまとめましたのでお知らせいたします。また、1月に開催された第3回学校運営協議会で出されたご意見、保護者アンケートでの自由記述等もお伝えいたします。今後も上戸小学校の更なる活性化に向け、保護者・地域の皆様と共に頑張っていきたいと思ひます。何卒宜しくお願いいたします。

令和8年2月 珠洲市立上戸小学校長 寺井 純子

令和7年度

学校評価（後期）

珠洲市立上戸小学校

重点 目標	自己評価						備考	
	評価項目	具体的取組	評価指標	評価：達成度判断基準		取組の状況・結果		達成状況
学 ぶ こ え	総合的な学 力の向上	・学力調査の結果を分析して定着していない内容を授業や朝学習での補充 ・授業での学んだ知識や言語力を活用して思考、判断し表現する活動場面を設定 ・国語検定、算数検定の実施	【成果指標】 各種・学力調査の結果が県及び国の平均を上回っている。	全国学力学習状況調査・県基礎学力調査の結果が県平均・市学力調査の結果が全国平均を上回っている教科が全体の		今年度最後の学力調査(全校対象・ベネッセテスト)を1月に実施する予定であり、結果は2月以降に示される予定である。 また、12月に5年生を対象に実施された県下一斉の評価問題(国語・算数)では、いずれの教科も県平均を上回る結果となった。	—	【評価方法】 学力調査 【評価実施時期】 8月、1月
				A:	80%以上			
				B:	75%以上			
				C:	50%以上			
				D:	50%未満			
	学力向上プ ランの推進	・授業でリレートークによる対話場面の設定 ・話し方、聞き方を各学級の実態に応じた指導	【成果指標】 相手の話をしっかり聞いたり自分の考えを伝えたりすることができる力が児童に身に付いている。	学習アンケートで「みんなに聞こえる声で考えを伝える」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が		9月～12月に実施したアンケートでは、肯定的な回答をした児童の割合は97.3%であった。児童は相手の話をよく聞き、自分の考えを適切に伝えることができている。集会や行事の振り返りの場でも、積極的に自分の意見を述べる姿が見られる。また、他校との交流学习においても、自分の考えが相手に伝わるよう工夫して話すことができている。	A	【評価方法】 児童に対する学習アンケート 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	95%以上			
				B:	85%以上			
				C:	75%以上			
				D:	75%未満			
GIGA スク ール構 想の推 進	・週に一度、タイピングの技能を計測する時間の設定 ・まとめ学習や家庭学習等で、積極的なクロームブック活用 ・3年生以上でのローマ字の定着	【成果指標】 児童にタイピングの技能が身に付いている。	タイピングのアプリを活用する。5分間で入力できる文字数の平均(3～6年)が		5分間で入力できる文字数の平均が390文字を上回った。週に一度のタイピングの時間やICT機器の積極的な活用により、着実な技能向上が見られる。また、休み時間に自主的にタイピング練習に取り組む児童も多く、タイピングに対する意欲の高さがうかがえる。	A	【評価方法】 タイピングアプリ 【評価実施時期】 7月、1月	
			A:	390文字以上				
			B:	360文字以上				
			C:	330文字以上				
			D:	330文字未満				
学校関係者評 価委員から	・学習習慣はおおむね定着している(宿題を「やって当たり前」とする学習文化が醸成されている)。							
こ え こ え	明 るい 挨拶 で 笑顔が あ ふれる 学校 づくり	・生活目標に挨拶に関する目標を設定による挨拶の習慣の定着 ・「あいさつ4つのコツ」を学級で指導し意識化	【満足度指標】 児童がすすんで挨拶する習慣が身に付いている。	児童アンケートで「挨拶は、明るく、いつでも・どこでも・だれにでも、先に行っている。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が		肯定的な回答は96%であった。学級で定期的に挨拶について話し合ったり、よい挨拶を積極的に認めたりする取り組みにより、児童の挨拶の様子は着実に向上している。今後は、代表委員会を中心に、よりよい挨拶ができる上戸っ子をめざして、さまざまな企画に取り組んでいきたい。	A	【評価方法】 児童アンケート 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	児童の90%以上			
				B:	児童の80%以上			
				C:	児童の70%以上			
				D:	児童の70%未満			
	児 童 が 相 談 で き る 体 制 の 構 築	・スクールカウンセラーの個人面談の実施 ・担任との個人面談の定期的実施	【努力指標】 児童が相談できる機会を設けている。	月1回以上児童との面談を行ったクラスが		毎月、担任との個人面談を実施することができたほか、担任以外の職員やスクールカウンセラーとの面談も行った。さらに、クロームブックを活用した毎朝のセルフ健康チェックにより、児童の思いや悩みをタイムリーに把握することができた。	A	【評価方法】 担任からの報告等 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	3学級			
				B:	2学級			
				C:	1学級			
				D:	0学級未満			
学校関係者評 価委員から	・子どもたちは運動や活動に意欲的に取り組んでおり、自信につながっている。							

重点 目標	自己評価						備考	
	評価項目	具体的取り組み	評価指標	評価：達成度判断基準		取組の状況・結果		達成状況
体づくり	体力の向上	・毎回の体育授業での3分間走の導入 ・ゴールデンタイム等を通した、授業以外の時間にも、積極的に体を動かす状況づくり	【成果指標】 体力テストで持久力に関する項目「20mシャトルラン」が県平均を上回っている。	「20mシャトルラン」において、県平均を突破した児童の割合が		県平均を上回った児童の割合は83%であった。目標の90%には届かなかったものの、ほとんどの児童に記録の伸びが見られるなど、具体的な取り組みを通して児童の持久力を高めることができた。	B	【評価方法】 20mシャトルラン 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	90%以上			
				B:	80%以上			
				C:	70%以上			
				D:	70%未満			
	健康教育の推進	・「元気アップカード」を月ごとに実施し、規則正しい生活習慣の定着 ・早寝・早起きの大切さ、メディアの使用時間等についての指導。 ・朝ごはんの大切さや食事のマナー等の食育の実施	【満足度指標】 学校での指導や家庭での働きかけの結果、子ども達の生活習慣が向上している。	保護者アンケートの「早寝・早起き・朝ごはんが実行できている」という項目に肯定的に回答した保護者が		肯定的な回答は84%であった。前期よりやや低下したものの、「しっかり実行できている」との回答は前期を大きく上回っており、よい生活習慣が着実に定着していることがうかがえる。今後も家庭と連携しながら、生活習慣のさらなる向上に努めていきたい。	B	【評価方法】 保護者アンケート 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	90%以上			
				B:	80%以上			
				C:	70%以上			
				D:	70%未満			
学校関係者評価委員から	・シャトルランの評価B(県平均を突破した83%)は、決して悪い結果ではない。 ・8の字跳びで1年生でも3分間で180回以上跳べるなど、非常によい。 ・地域の先生としてトランポリンの専門指導者をお招きし、トランポリン教室が開かれ、小学生のうちからトランポリンに親しめる環境は非常に貴重である。							
絆づくり・開かれた学校	地域の教育力の活用	・地域人材を活用し、地域の特色を生かした授業実践の実施	【努力指標】 授業やクラブ活動などで、地域の人材を活用する授業を行っている。	学期に1回以上行った学級が		生活科・総合・道徳など、全学級において地域人材を活用した授業を実施した。老生会との干し柿づくり、生き物観察会、社会科見学など、地域と連携した多様な学習活動を行うことができた。今後も地域の方々との交流を深め、地域の特色を生かした授業づくりをさらに推進していく。	A	【評価方法】 担任からの報告等 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	3学級			
				B:	2学級			
				C:	1学級			
				D:	0学級			
	学校情報の積極的な公開と家庭・地域への適切な説明	・学校だよりや学級だよりの発行、ホームページの充実による保護者や地域方の学校経営方針や教育内容についての周知と理解の推進	【満足度指標】 保護者が学校の教育方針や児童の様子が伝わっていると感じている。	保護者アンケートで「学校だより、学級だより、ホームページ等で児童の活動の様子が伝わりやすい」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、		肯定的な回答は100%であった。A評価の割合も前期の36%から64%へと大きく向上した。こまめなタイムリーなホームページ更新が保護者に浸透してきたことや、学級だよりを通して児童の様子を丁寧に発信してきたことが、評価向上につながったと考えられる。	A	【評価方法】 保護者アンケート 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	85%以上			
				B:	75%以上			
				C:	65%以上			
				D:	65%未満			
学校関係者評価委員から	・子どもが参加する学校運営協議会は非常に意義深い(地域・学校・児童が一体となっている)。 ・仮設住宅の地域住民との交流(行事や児童会活動で)を実施できた。 ・長年続いている地域連携の活動は今後も大切に継続し、新しい形の地域交流も進めていきたい。							
人材育成・働き方改革	人材育成	・若手が中心となって、職員全体で学ぶ機会の設定 ・日常的に、かつ月1回短時間でも設定し、授業や行事に実践的に生きる研修の実施 ・夏季休業中の若手主催で研修会の実施	【満足度指標】 若手教員早期育成プログラムの研修により、職員が指導力や・授業力が向上したと感じている。	教職員アンケートで「校内研修が、授業力の向上や授業改善に生かされている」に対し、肯定的な回答をした教職員の割合が、		前期に引き続き、肯定的な回答は100%であった。教科の授業づくりやAIの活用などについて研修を実施し、具体的に実践的な内容の研修会を行うことで、校務や授業改善にすぐに生かすことができている。今後も引き続き、計画的に研修を進めていく。	A	【評価方法】 実施回数 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	100%			
				B:	85%			
				C:	50%			
				D:	25%未満			
	働き方改革の推進	・校務分掌の平準化と担当の明確化を図り、意識改革の推進 ・業務改善のための会議の定期的開催 ・校務支援システムの活用による業務改善の推進	【成果指標】 教職員が働き方改革を意識して効率的に業務を行い、時間外勤務時間を削減している。	定時退校日を月に3回(第3水曜日、最終金曜日、マイ定時退校日)とし、定時退校日を3回以上取得した割合が、		8月～12月の達成率は172.3%だったが、10・11月は目標に届かなかった。新たな行事や取り組みが重なり、打ち合わせの機会が増えたことが要因と考えられる。今後は計画的に打ち合わせ時間を設定し効率化を図る。	A	【評価方法】 勤務時間記録表、職員アンケート 【評価実施時期】 7月、1月
				A:	150%以上			
				B:	130%以上			
				C:	100%以上			
				D:	100%未満			

